

H 2 6 年度九州支部春の行事のご報告

～ 韓国釜山見学ツアー～

(前号の つづき)

九州支部長 千々木亨（1979年卒）

3) 日韓シームレス物流基地見学

見学に先立ち、日本通運(株)福岡支店の文美玲様から、日本通運殿の日韓シームレス輸送物流サービスについてご説明がありました。文さんは北朝鮮白頭山近郊の中国領で生まれ育った朝鮮族系中国人ですが、日本に留学後、日本通運に就職し福岡で日韓物流を担当しています。堪能な日本語と韓国語を駆使して活躍しているバイタリティあふれる若き国際ビジネスウーマンの姿がまぶしく見えました。



日韓シームレス輸送とは日本と韓国のどちらの道路も走ることを許可されたトレーラーを用い、フェリーを介して積み替えせず直接日本と韓国の間を、荷を搬送する物流サービスです。海上簡易通関を行うことで物流工期を劇的に短縮し、荷崩れしにくいRORO船を用いることで国内輸送並みの簡易梱包での輸送を実現しています。



荷主、輸送業者、受取主すべてがライセンスを取得する必要があるので、現段階では韓国自動車部品メーカーから日産九州工場への部品輸送のみが実施されています。部品工期は発注から納入までわずか1週間。発注を受けてから部品は生産され釜山の集配基地に前日までに集められます。夕刻日韓両用コンテナに積み込み出荷されると翌日には日本に到着し直接自動車組み立て工場に運び込まれ即日使用されます。

対馬海峡の天候は年間をとおり比較的安定しており、フェリーが休航になるのは1年に1回程度。緊急でどうしても間に合わない場合も飛行機輸送という手段があり輸送遅れトラブルは今まで皆無だそうです。今の所は韓国から九州への荷しかなく、日本から韓国への帰り便の定期荷物を募集中です。

4) 現代コンテナターミナル見学

夕刻、釜山国際コンテナターミナルでも最大級の規模を誇る現代コンテナターミナルの特別見学を行いました。見学に当たっては、韓国日本通運(株)の市川慎太郎部長様はじめ、漢陽大学の鄭泰亨先生、韓国海洋大学の崔在星先生、韓国自動車産業研究所の朴正圭様から、韓国港湾局や現代グループへ再々おとりなし頂き、無事実現にこぎつけることが出来ました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

見学時には超大型コンテナ船が3隻停泊し、積込作業を行っておりました。参加者全員そのスケールの大きさに圧倒されましたが、もっと驚かされたのは、積込みが終わるや、3隻ともあっという間に錨を上げ、ものの10分ほどで出航してしまったこ



とです。その手際の良さに一同、度肝を抜かれました。大型クレーンが動き回っておりましたが、すべて遠隔で操作しているそうです。それでも労働組合と申し合わせで完全自動化していないとのことでした。



(つづく)

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail : jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MS ワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

安全と品質（造り込み）は管理者の本音の表れ

1968年卒 加藤健治

安全も品質も再発防止＋未然防止という観点に立つと、基本的に
進め方は同様になってきます。

1. 安全

(1) 本音の見方

以前、多くの企業を指導されている愛知県担当の労働局長と安全の指導方法について、お話する機会がありました。その際、局長から、“いろいろな会社の安全活動を指導するとき、何をまずされますか？”と問われ、即、“現場を見させてもらいます。”と答えました。現地、現物のくせ、で、まず現場を見るのが一番大切と考えていました。局長から、“私は、どんな人を安全の担当にされているかで、その会社トップが本当に口だけでなく、安全第一で取り組んでいるか、人材の配置で、わかります。トップの本音がわかりますよ。”と言われました。“**トップの本音を見ること、見方**”を教えて頂いたのだなと思い、今でも鮮明に覚えております。

(2) 安全はマネジメントそのもの

当時、私の勤めていた会社では、“過去の災害を層別した6種類の不安全行為”を具体化し“しない、させない”という重点6活動を続けてきて、災害が減少したのですが、下がり止まってきたので、ゼロに向けての新たな活動が求められていました。そこで、安全のトップの副社長が全管理者に“**安全はマネジメントそのもの**”と言い切り、管理者の活動を求めました。例えば、

重大ヒヤリが発生したり、怪我が工場が発生すると次の日の朝、安全トップの副社長に担当部長と私と報告に行きますと、必ず、“**起きる前にお前は何をしたか？**”と問われます。現場部門は与えられた環境（工程、設備）を是とし、前提になりがちであり、“管理者が改革をしているか？”を問われました。

実際に行動で示されたのは、例えば

- ・ 段替え時、狭い場所に入って、ベテランでないとできないような部品交換をせねばならない設備を根本的に設計し直して、安全に楽に作業できる設備に変える。
- ・ 型の保全時、高さ2mぐらいの大きな鍛造型の上での保全作業を、高所落下しないよう回りに保全台をつくる。

本質安全設備（はさまれても怪我をしない低推力設備等の本質安全設備への投資、設備改造・・・）の開発など、

以上のような、大きい改造前後で全管理者を呼び、こんな危ない作業を管理者が放置しないよう現場で教育。

現地、現物による5つのなぜによる真因追求と再発防止は現場ででき、促進しなけ

ればならないですが、ゼロをめざす、未然防止は管理者がスタッフを使って実施する主役です。

(3) 本質安全環境づくりと本質安全人間づくり

安全は、人が対象ですので、本質安全設備づくりと本質安全人間づくりの両方で発生防止できます。本音でいかなる場合でも安全な行動をとれる人間を増やすためにも、管理者の本音を見せる必要があります。重大な災害は必ず多くの人(含む管理者)の不安全行動が重なり防げなくなります。それを防ぐためにも。

2. 品質

品質についての未然防止活動につきましては、以前、本誌で述べさせていただきました。始められた当時の、副社長談を参考までに次の通りです。“品質の上で優位に立つためには・・・。標準作業を守るとか、不良の再発防止とか従来の通りの手法だけで職場の人たちの品質意識を駆り立てるにはマンネリズムと力強さの不足を感じさせます。そこで考え出したQAネットワークと称する活動(未然防止活動)を工場自身で行うことです。何よりも重要なことは、会社の他の部門のスタッフから与えられた標準に従ってやればよいという受身の姿勢から、製造部門自らの意思によって評価、診断し、改善しようという前向きな意識を醸成することにあります。しかも活動が体系的に行われ、職場の体質が強化されます。“品質についても安全と同様、与えられた工程、設備、手順を現場は前提として受け入れがちなのですが、それでは不良ゼロを目指すには不足で、未然防止活動が必要になりました。“本来検査はあるべきでない”のための設備、工程、環境対策活動です。

3. 工場での安全、品質の進め方

(1) 4Sと見える化、見られる化

まず職場は4Sと見える化からはじまりますが、見える化は“担当者が、標準作業通りスムーズに行っているか、仲間意識醸成をしやすくする。と同時に、管理者の本音の見える化、となります。工場のつい立てを、透明の樹脂とし、スペースの工夫をして部品置き場を目線以下の高さにして、工場内の歩行帯を歩いていくと、ほとんどの人が見えるようになるのですが、逆に誰が工場に入ってきたか、判ります。管理者も“見られる化”となります。本当に現場の問題をわかってくれるか、行動してくれるか見られています。そのため、現場に行く目的(流れと在庫の状況、捨てずに集めさせた不良現品、故障現品、工程ごとに工程内不良ゼロを目指した活動、工程ごとの可動率向上と頻発停止原因解明活動など、朝市か夕市に出席し発言など)をつくり、本音を示すことが未然防止活動の一つです。

(2) 安全はヒヤリ、品質は工程内不良を撲滅する活動

(3) 本質安全対策、原理の追求による不良を造らない工程づくり

作業を担当している人は得てして、今ある設備、工程、環境を是として考えその中で工夫、改善を考えることとなります。

(4) **本音を示す管理者先頭の対策活動。**

管理者は本質的にどうあるべきか、本質安全、不良を造らない、物を動かさない・・・、品質のアセスメント、安全のリスクアセスメントといろいろな作業、工程の評価方法がありますが（未然防止対策の実施判断に使えます。）評価した結果、何を対策するか、実行するかがキーであり、また、評価するまでもなく誰が見ても根本的に危ない（高熱、高圧、重量物、高所、高速・・・）工程を対策するかは方法の開発、人資金の投資を伴い安全、品質のトップが判断しなければならないことがあります。1つ絞って、皆に本音を見せること、が大切と考えます。

4. まとめ

- ・安全も品質もゼロを目指すためには、再発防止活動に未然防止活動を加えてきました。**未然防止活動は管理者の本音を見せることが一対となってゼロを目指すと考えております。**
- ・“安全第一、品質第一”はどの工場にも掲げられ、皆の口癖のようになっております。“第一”の行動とはどういうものかを、管理者は具体的に示すことが、定例の講演より大切であり、本音を示す良い機会と考えております。

(おわり)

蒸気タービンの歴史 (その 14)

The History of Steam Turbine

藤川 卓爾 (S42)

転載元：火力原子力発電技術協会，
「火力原子力発電」，Vol.61，No.8，pp.33-45，(2010-8)

7．日本における戦後の蒸気タービンの歩み

7.1 発電用^{(15) ,(16) ,(24)} (つづき)

1968年(昭和43年)には初の超臨界圧2段再熱ユニットとして関西電力姫路第二発電所4号向け出力450MW，蒸気条件24.1MPa(3,500psig)，538/552/566 (1,000/1,025/1,050 °F)のタービンが竣工した。1980年代以降の蒸気条件の向上については後で述べる。

最大ユニット出力については欧米に約5～10年遅れながら増大していった。図28に事業用発電プラントの最大ユニット出力の変遷を示す。また，図29に日本の事業用火力タービンの最大ユニット出力の推移を周波数別に示す。東京電力千葉3号のあと，1960年(昭和35年)に中部電力新名古屋発電所2号タービンで220MW，東京電力横須賀発電所1号タービンで265MW，1964年(昭和39年)に，東京電力横須賀発電所3号タービンで350MW，中部電力尾鷲発電所1号タービンで375MWと増大して行った。東京電力(株)は横須賀1号の265MW以降はクロスコンパウンド機を採用した。

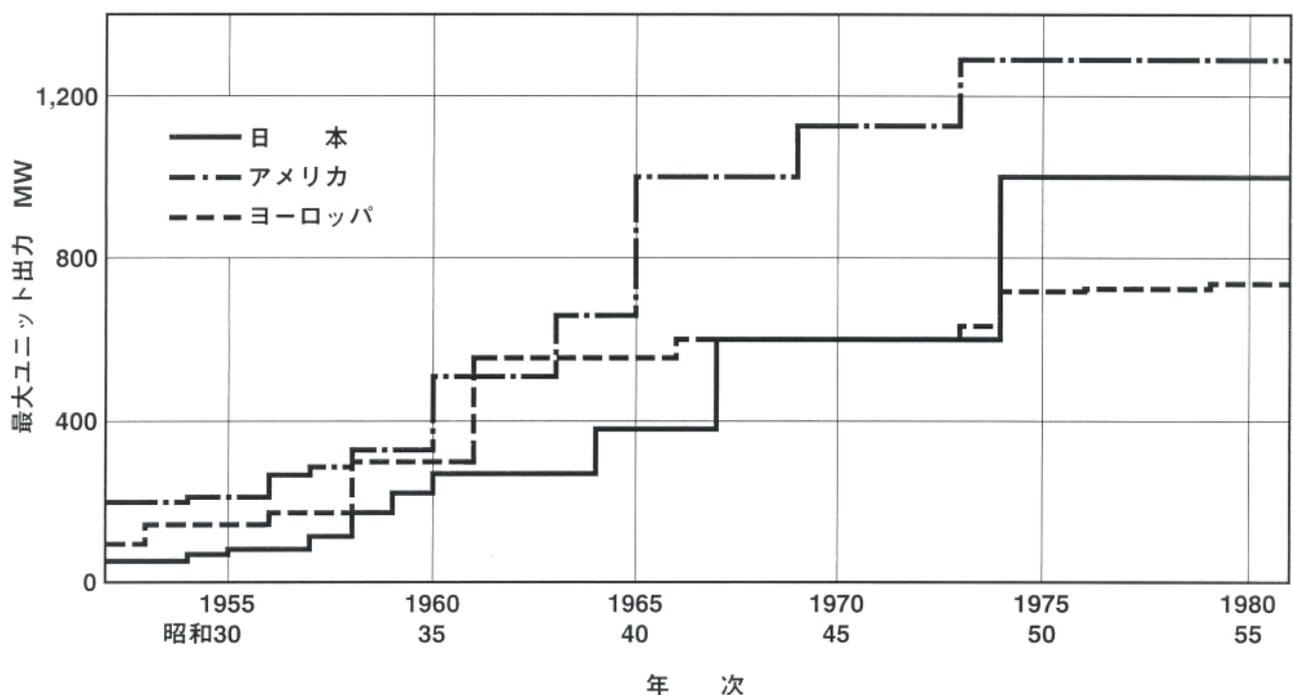


図28 最大ユニット出力の変遷

[出典] 日本機械学会編「機械工学便覧 応用編 B6 動力プラント」，p.B6-99。(1991-5)

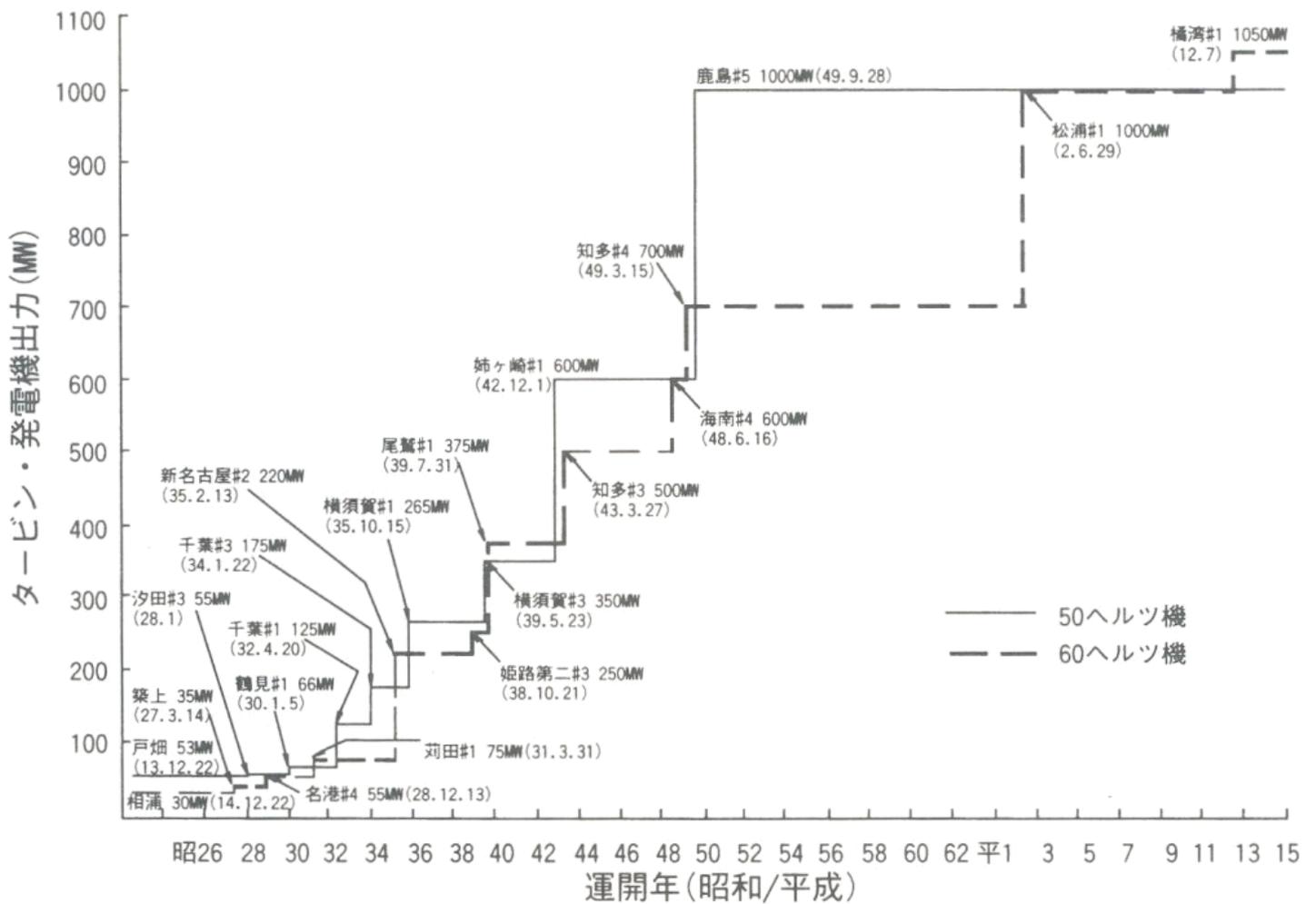


図29 日本の事業用火力タービンの最大ユニット出力の推移

[出典] 「創立50周年記念 火力原子力発電 50年のあゆみ」, 火力原子力発電技術協会, p.119 .(2000-10)

さらに, 1967年(昭和42年)に上記の東京電力姉ヶ崎1号で600MW, 1974年(昭和49年)に中部電力知多発電所4号タービンで700MW, 東京電力鹿島発電所5号タービンで1,000MWと増大した。写真19に鹿島5号タービンを示す。

図29に示されている50Hz機で横須賀1号以降はクロスコンパウンド機である。

60Hz機で知多4号まではタンデムコンパウンド機であるが, 1990年(平成2年)に竣工した電源開発松浦発電所1号タービン(写真20)はクロスコンパウンド機である。その後, 2000年(平成12年)に電源開発橘湾発電所1,2号1,050MWタービンが運転を開始した。前述した3.2.1項の図6の(b)が1号タービン,(a)が2号タービンの断面図である。これらのタービンは火力タービンとして世界最大容量である。

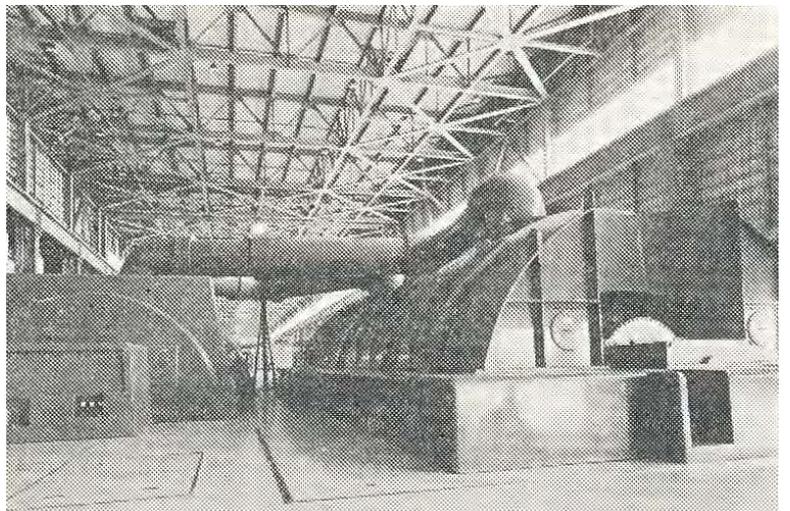


写真19 東京電力鹿島5号1,000MWタービン

[出典] 東京電力(株)火力部「東京電力火力技術三十年の歩み」, p.136 .(1984-3)

図 29 には示されていないが、2001年(平成13年)に中部電力碧南発電所4号1,000MWタービンが竣工した。このタービンは世界初の3,600rpm タンデムコンパウンド1,000MW機である。写真21に現地据付中の碧南4号タービンを示す。ちなみに、3,000rpm タンデムコンパウンド機では2002年(平成14年)竣工の北海道電力苫東厚真発電所4号700MWタービンが国内最大容量である。

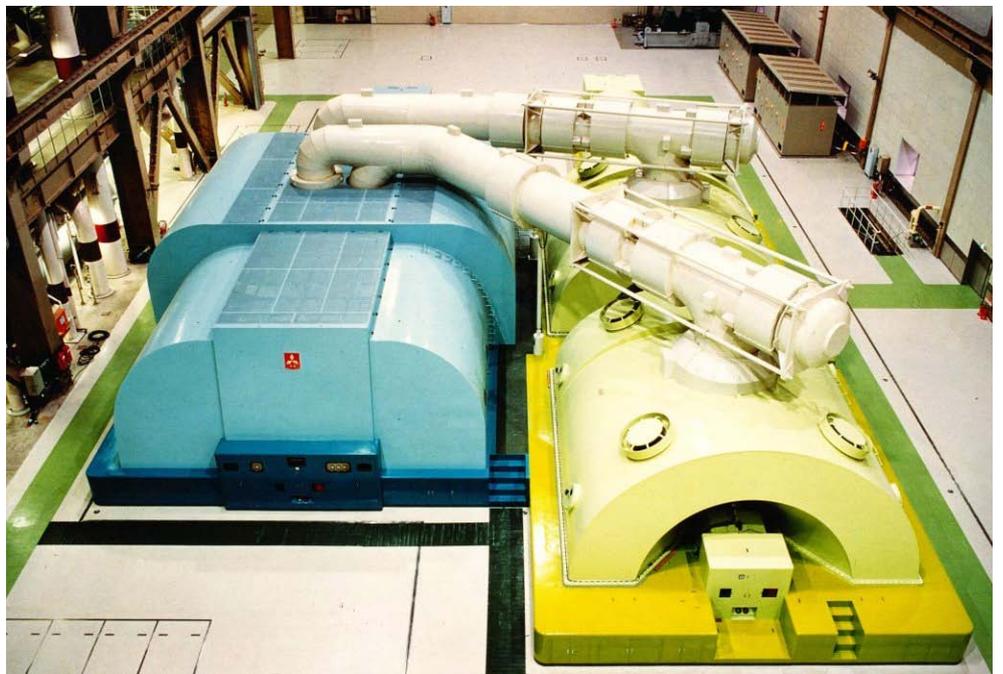


写真20 電源開発松浦1号1,000MWタービン
[提供] 三菱重工業(株)

原子力タービンの最大ユニット出力は1966年(昭和41年)に運転開始した日本原子力発電東海発電所1号タービンの166MWから増大を続け、1979年(昭和54年)完成の関西電力大飯1号の1,175MWをピークに一旦増大傾向は止まり、その後1,100MW級のものが多数建設されていたが、1996年(平成8年)に東京電力柏崎刈羽6号1,356MWタービンが完成したのち、1,300MW級のものが3ユニット竣工し、4ユニットが建設中である。また、現在1,500MW級原子力タービンの建設準備中である。

原子力タービンは火力タービンに比べて蒸気条件が低いため、熱落差が小さく同一出力に対して蒸気流量が大きくなるので一部の国を除いて1,800rpmあるいは1,500rpmのタービンが使用されている。図30に日本の原子力タービンの最大ユニット出力の推移を示す。ちなみに欧州ではフィンランドとフランスで1,700MW級の原子力タービンが建設中である。

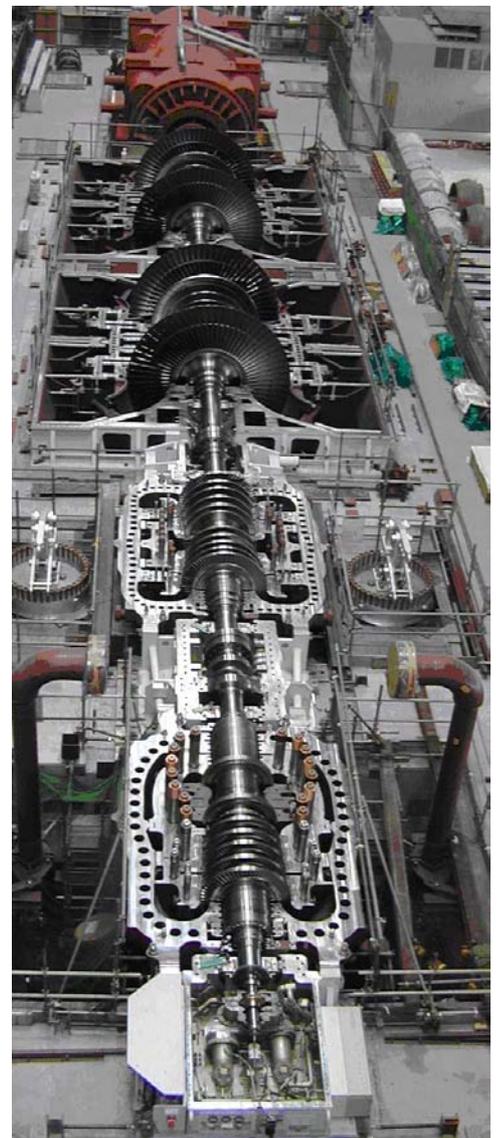


写真21 中部電力碧南4号1,000MWタービン

[提供] (株)東芝

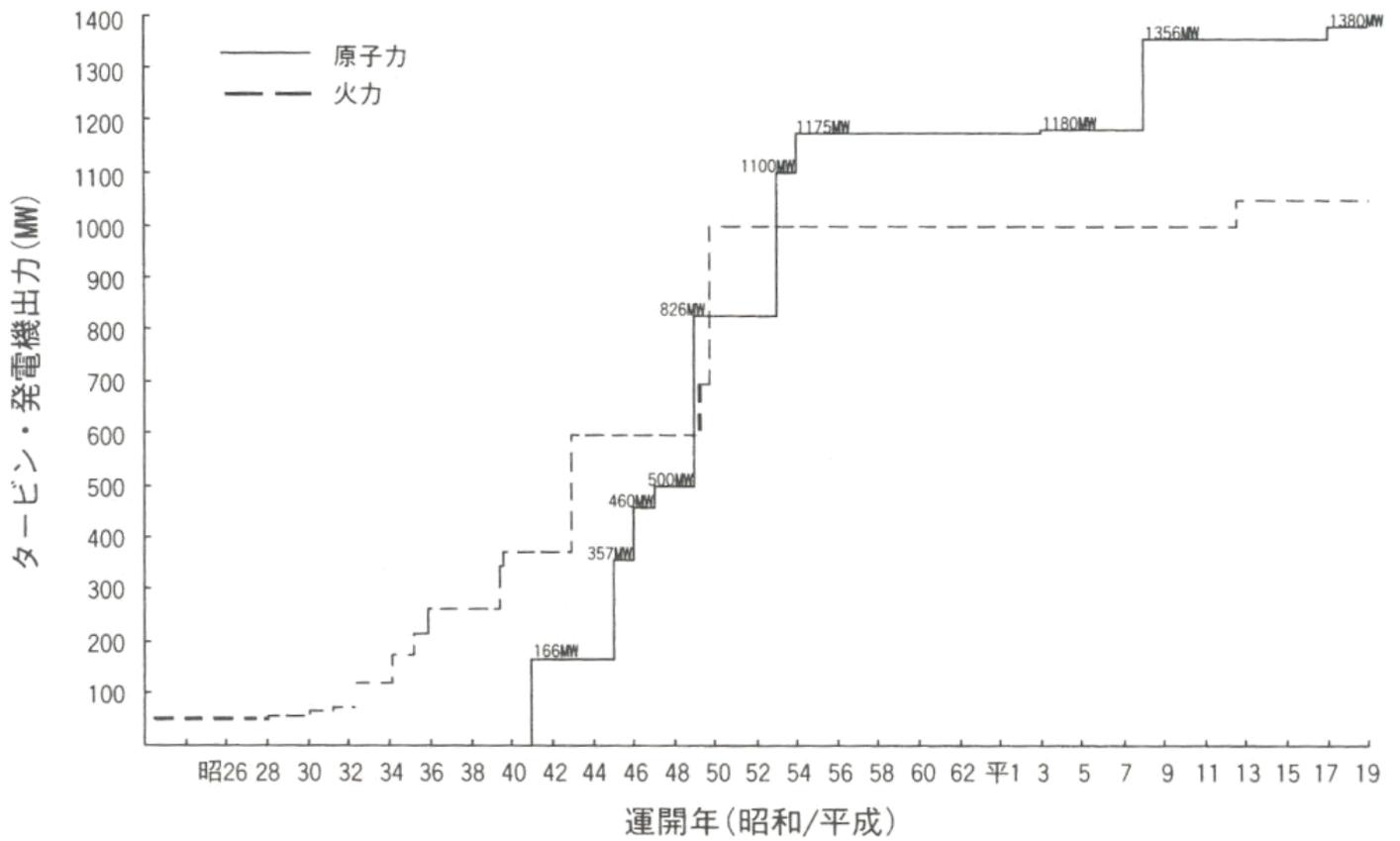


図30 日本の原子力タービン最大ユニット出力の推移

[出典] 「創立50周年記念 火力原子力発電 50年のあゆみ」, 火力原子力発電技術協会, p.128.(2000-10)

(つづく)

1957 年 9 月米国国務省がアイゼンハワー大統領の命により創設した国際原子力科学および技術訓練コース (ISNSE) に参加するようとの科学技術庁の指示を受け、初めての海外旅行に出発した。このコースは米国に親しい 28 国の参加を見て 1952 年に始められたものである。日本でも原子力に関係した政府官庁の技術官僚、また民間からの参加者は全て政府の囑託の肩書を貰って一切の責任を各国政府が負うシステムとなっていた。即ち参加者全員が政府の職員であることによって政府以外に責任が掛らないよう配慮したものであった。国内の原子力関係者で将来開発の中心と見なされた主な人たちは殆どこのコースに参加されていたのである。

私はその第 6 期に参加した。第 6 期は参加希望者が非常に多く、管理可能な範囲として参加 40 カ国に対し、各国の参加者を 4 名に制限し、これを各 80 名の 2 グループに編成して、最初の 4 カ月間は二つの大学 (Pennsylvania 州立大学および North Carolina 州立大学) で並行して夫々講義を行い、米国東部地方の原子力施設の見学旅行 (約 2 週間) の後、後半はシカゴの南 60 mile にある Argonne 国立原子力研究所 (此処で連鎖反応によって初めて臨界に成功したエンリコ・フェルミが在籍した) に全員が移動し、研究用原子炉を用いた運転実験、原子炉の緊急停止操作、実際の放射性線源を用いた放射線防護実験、放射能計測法等、数々の貴重な訓練を受けた。

このコースは、大金を投じて西側世界の著名な学者、大学教授や、有名な研究者、技術者を集めて当時最先端を自ら任じていた米国が、その技術の内容や経験を徹底的に伝えて各国の原子力開発を推進させることを目的として設けた壮大な計画を実行したものである。最後の 4 ヶ月で十分な経験を積むことが出来た後、修了式が行われ、その後 2 週間、西部原子力施設、特に高速実験炉を含む新しい開発成果の見学旅行を終わった後、現地で解散する日程であった。

此処に参加した留学生全員は、お役所の参加者が中心となって命名された「I.S.N.S.E 同窓会」に登録され、毎年 9 月に集まっていた。ここで最も新しい卒業生たちがその経験を報告するのが慣習となっていた。出席者は比較的多かったが、かなりの々が多忙のために欠席された。しかし卒業生にとっては、最新の世界の原子力情勢を話し合う唯一の場所であったことから大いに楽しんだものであった。

(おわり)

『都をどり』鑑賞：

『都をどり』は、明治5年(1872)の創演です。明治維新の東京遷都に伴い、京では王朝以来の歴史の誇りを守るべく、博覧会の計画が進められ、その「附博覧」として創演されました。四季の中で最も美しい京の春、「ヨーイヤサー」の掛声と共に、華やかにその春の到来を告げてきた都をどり、明治、大正、昭和、平成と四世代に亘り回を重ね、今年は第142回を迎え、さらに新たな年輪を刻んでいます。咲き誇る艶麗な桜と美を競う都をどりは、祇園の芸妓、舞妓の優美な姿と日本美溢れる絢爛豪華な舞台です。祇園甲部歌舞練場本館、別館、正門、八坂倶楽部、弥栄会館等が有形文化財に登録され、名実ともに我が国の貴重な文化財遺産として認められています。

都をどりのお茶席でお茶を点てる作法は立礼式と言い裏千家11代玄々斎宗室が都をどりの為に創案したもので点茶盤といわれる卓子に風炉釜をはじめ点前の道具を飾り円椅子に腰かけて点前する座式の生活様式から椅子様式の生活へと移り変わる時代の風潮を取り入れた独自のお点前です。



祇園・甲部歌舞練場の出入口。



歌舞練場の舞台緞帳



芸妓「豆そめ」さんの立礼式のお点前



芸妓さんのお点前によるお茶とお菓子（右はお土産の都をどり特製だんご皿）

50 年会 < 1950 年卒 > 同窓会

日時：平成 26 年 5 月 19 日（月）11：00～14：00

場所：下間邸

50 年会会員が 15 名となり出席者も少なくなってきたので、今回から会員下間君の邸にて開催することになった。出席は（下間、福井、森川、小澤）の 4 名で、家庭的な雰囲気の中で話が弾んだ。欠席会員には全員の近況報告を配布、次回は来年 5 月第 3 月曜日に開催する。（小澤記）



H26 年度 S42 年卒関西同期会開催報告

S42 年卒の京機会メンバーの関西同期会を、平成 26 年 6 月 7 日にホテルグランビア大阪 19 階アブで開催しました。忙しい人が多く参加者は 9 名でした。同期メンバーの近況を中心に歓談したところ、あっという間に 3 時間が過ぎました。最後に次回について話し合いましたが来年も 6 月の第 1 土曜日に開催することにしました。次回は平成 27 年 6 月 6 日（土）17 時から同場所で行います。関心ある方は幹事 hts_kawai@yahoo.co.jp 川合まで連絡ください。



第6話 カラシニコフ

カラシニコフの銃についての文献は多くありますが、彼個人の伝記についての資料は余りありません。入手可能なものとして、彼の娘の女友達のフランス人ジャーナリストがカラシニコフに会っているいろいろ聞いたことを本にしています (E.Joly, Ma vie en rafales カラシニコフ自伝、朝日新書106、2008.04.30)。

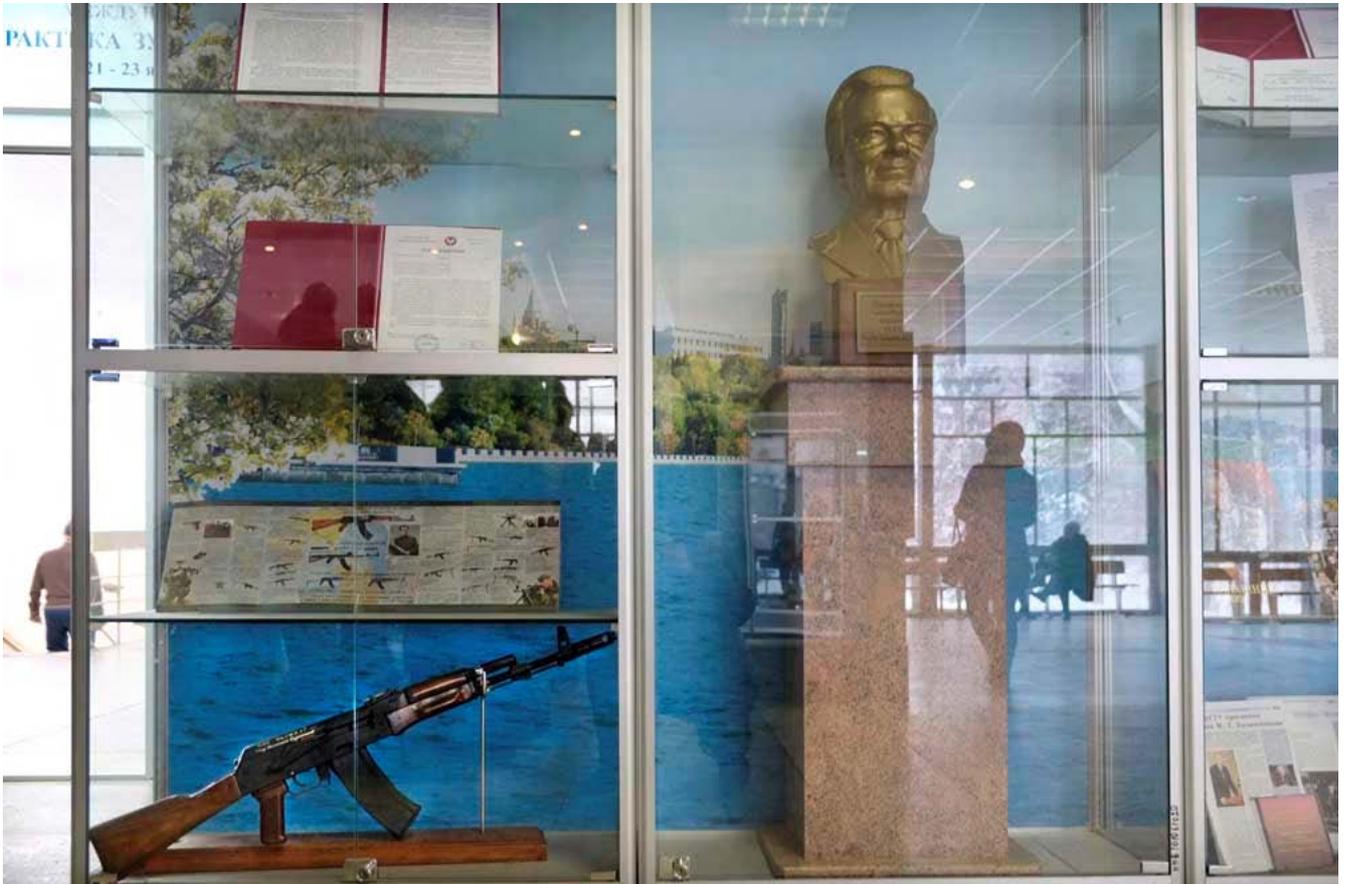
彼は1919年、西シベリアのアルタイ地方のまあまあ豊かな農家に生まれましたが、スターリンによる農業のコルホーズ化と豊かな農民の排除のため、家族はひどい目に会いました。彼は機械や銃器には小さいときから興味があったようです。第2次大戦で国を守るために優秀な銃が必要だと言うことに気がつき、銃の設計者を志したそうです。

この本に書かれていた機械設計の本質は、機械技術者としての私の目を開かせたものでもありました。すなわち、今設計対象としている機械は、どのような環境条件において使用されるかを十分理解し、その環境条件下で要求される機能を果たさねばならない、ということが設計においてまず第一義的に達成されねばならない、ということです。彼は突撃銃の設計で、様々なコンペティターと競争設計をし、勝ち抜いて行くのです。突撃銃の設計において要求されていた条件とは「簡単に分解でき、その状態で泥水の中に一晩つかった状態で、真っ暗闇の中の手探りで容易に銃が組み立てられ、まあまあの精度で弾丸が発射できること」と言うものでした。部品に引っ付いた微小な砂粒は当然ながら取りきれない状態で、銃はどうしたら組み上げられ、完成銃として精度を保てるか、をクリアーする設計が要求されたのです。考えているとクイズを解いているようですね。この話を読みながら、第二次世界大戦中のスターリングラードの攻防戦で、ドイツ軍の精密な機関銃は凍り付いて弾丸を発射できなかったが、ソ連軍のものはともかくも前に弾丸を発射できたのでこの戦いに勝つことが出来たと、昔どこかの本で読んだ記憶がよみがえりました。

イシェフスクの町で人と話すときしばしばカラシニコフが出てきます。彼は本当にみんなから愛されているようです。彼は郊外の丸太小屋の家に生涯つましく住んでいたこともイシェフスクの人には身近な良い印象を与えているのかもしれませんが。案内の女性に、せっかくイシェフスクに来たので彼の墓参りをさせてほしいと言いましたが、彼はこの町で死んだものの、死体は国家功労軍人の記念墓

地に葬られるためモスクワに送られ、この町にはないそうです。

今回、国際会議のあった大学の正式な名称は、カラシニコフ記念イシェフスク州立工科大学と言います。会議の開かれた建屋の入り口には、彼の彫像とAK-47 突撃銃が飾ってありました。



カラシニコフは「私の銃はあくまで祖国を守るために開発したものである。」と言っています。しかし、今の日本でこんなことを書くと右翼とおもわれませんか。用心用心。カラシニコフの銃がテロ行為や途上国の紛争地域で用いられることが多い事実について、「このような状況は予想しておらず、残念なことである。」とコメントし、実際に、日本の雑誌社が刊行していた少女が軍人に扮している漫画のためにサインを貰いに行った際には「子供に銃を持たせちゃいかんよ！」と編集者を叱り付けていたそうです。また、2013年4月、ロシア正教会のトップであるキリル総主教に対し書簡を送り、自ら開発したAK-47により多数の人命が奪われたことに対する心の痛みを告白。敵であったとしても人々の死に罪があるのか等の問いかけを行ったそうです。また、中華人民共和国によるAK-47のコピー生産にも「中国はライセンス切れにもかかわらず、ロシア政府や関係者にことわりなくAKの生産を続けている。彼らは、買い手さえあればどこにでも売る。それがAKの評価を落とすことになる。開発者としてはきわめて不愉快なことだ。」と嫌悪感を隠していなかったとも書かれています (<http://ja.wikipedia.org/wiki/ミハイル・カラシニコフ>)。

今回の国際会議では何かの折にウォッカとブランディーが出ます。ブランディーは5ツ星の素晴らしい品質のもので、フランス製の最高級ブランディーなんてものの品質よりはるかに上です。街中や空港でこのブランディーを探しましたがどこにもありませんでした。ウォッカは「カラシニコフ」。これもなかなか素晴らしいウォッカです。カラシニコフは、2004年に「カラシニコフ」ブランドのウォッカを売り出しました。テレビインタビューで、なぜウォッカに銃と同じ名前をつけたかと聞かれ、「私はいつも著名な自分の銃の名前の印象を、良いことをすることで向上させ、広めたいと思っている。」と答えていたそうです。(http://ja.wikipedia.org/wiki/ミハイル・カラシニコフ)。このウォッカはどこでも買えます。僅かですが、京機会事務室の段さんの部屋においておきますので、事務室宛のお菓子を持参して一杯だけ御賞味ください。なくなったらそれでごめんなさい。

(つづく)

野次馬話 第98話

S43 卒 遠藤 照男

「出遅れ挽回に躍起はOKで汚名挽回に躍起は駄目！か？」

出典元を書く必要がないほど[出遅れ挽回]はよくある表現である。この表現は正しいか？ [失地回復]も同じである。行き詰ったときには、言葉の定義を明らかにしたうえで、使われ方を並べてみるのが常道である。早速、[名誉挽回]、[名誉回復]はいい、[汚名挽回]は駄目、[汚名返上]または[汚名を雪(すす)ぐ]に改めよの例をを思い浮かべる。その通り・・・か？

[挽回]とは、[失われたものを取り戻す、損なわれたものを元の状態に戻すこと]である。 [名誉が失われた状態]から戻す [名誉挽回]でOK。 [出遅れ=優位を失った状態]から戻す [出遅れ挽回]でOKと扱われている。 [失地=土地・地位・地盤を奪われた状態]から戻す [失地回復]でOKと扱われている。

それなら、何故、 [汚名=名誉が毀損された状態]から戻す [汚名挽回]でI OKでなく、NGなの？ [汚名挽回]の表現を用いる人は、上の使い方に倣った表現をしているので、間違っていないのである。・・・と私は考えている。

正しい言い回しをどうするのか、状況を正す共通の言葉を探さなければならないのだが、咄嗟(とっさ)に思い浮かばない。多分、対象に応じた言い回しで、[必死に追付く]、[失った地位を取り戻す]とすべきなのだろう

1．なぜ企業業績の改善が続いているのか？

三菱UFJ R&C

史上最高をうかがう企業利益の背景にあるもの

http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan_reg/watch_1404

- (1) 順調に拡大する経常利益～2013年度は過去最高額を更新へ
- (2) 売上高要因の動向～なぜ、製造業と非製造業で効果が異なるのか？
- (3) 限界利益率要因の動向～なぜ、製造業で悪化しないのか？
- (4) まとめ

http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan_reg/watch_1404.pdf

2．資本成熟国の投資促進という逆説

2014/4/21 第一生命経済研

日本は投資不足？ それとも投資過剰？

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/kuma/pdf/k_1404g.pdf

3．潜在成長力が高まらずに起こること

2014/4/18 第一生命経済研

投資・雇用の停滞が貿易赤字の遠因～

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/kuma/pdf/k_1404f.pdf

4．異次元緩和スタートから1年 日本経済はどう変わったのか

2014.4.25 小宮一慶 日経 BizCOLLEGE

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140424/394581/>

昨年4月4日に日銀の黒田総裁が「異次元の金融緩和」を行うと発表してから、1年が経過しました。その間、円安が進みグローバル企業の業績が総じて改善するとともに、日経平均株価が上昇し、そのおかげで「資産効果」が発生して、国内景気は少しずつ改善していきました。その裏側では、異次元緩和が粛々と進み、民間金融機関ではある変化が起こっていたのです。今、多くの人たちは、消費税増税の影響に注目していますが、私は違うところを懸念しています。それは、異次元緩和の効果が落ち始めているのではないかということです。今回は、日銀が行っている異次元緩和によって、日本経済がどのように変わったのかを分析してみたいと思います。

5．日本経済の幻想と真実 日銀は「出口戦略」を示すべきだ

人手不足が示すアベノミクスの終わり

2014.05.07 JBPress

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/40627>

日本銀行の黒田東彦総裁は4月30日の記者会見で、2%のインフレ目標が実現できるという強い自信を示し、現在の3.6%という完全失業率は「構造失業率に近

づいているか、ほぼ等しい」と述べた。構造的失業率というのは、経済学では自然失業率と呼ばれる。これは安定して維持できる失業率という意味だが、それに等しい状態で中央銀行が金融緩和を続けるのは奇妙な話だ。

6 . 政府は改革への強いメッセージを出すべき

竹中平蔵 2014.4.25 nikkei BPnet

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140425/394871/?ST=business&P=1>

今年に入ってから日本株が大きく下落している。株価が下がっている理由の一つは外国人投資家による売り越しが増えていることで、そうした状況のなか、いま求められることは何かを考えてみたい。

7 . 消費者が「金を使う」という景気対策

和田秀樹 2014.4.22 Nikkei BPnet

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140422/393976/?ST=life&P=1>

私はこの20年間、3カ月に一度のペースで、ロサンゼルスに精神分析を習いに通っている。そして先月、ワシントンDCの在米日本大使館広報文化センターで、私の映画『「わたし」の人生』がモナコの国際映画祭で4冠を受賞したことを受けて、上映会をやるというので、しばらくぶりに東海岸にも行って来た。

8 . 消費増税は「限定的」か、四半期ごとのGDP速報値は2カ月後

http://www.nikkeibp.co.jp/article/matome/20140420/393764/?top_matome

2014.4.21 Nikkei BPnet

4月1日に17年ぶりに消費税が引き上げられ、消費税率が8%になった。政府や日銀、そして企業の過半数は増税の影響は「限定的」と事前に受け止めていた。増税前に駆け込み需要で売り上げを大きく伸ばした百貨店は4月に入り、売り上げを減らしたとも言われるが、その影響がどの程度かを見極めるにはまだ時間がかかりそうだ。今後、国内総生産(GDP)統計に注目する必要がある。四半期ごとに発表されるGDP統計は該当する四半期の2カ月後に「第1次速報」、その1カ月後に「第2次速報」が発表される。1~3月の第1次速報値が発表されるのは5月15日。この統計により「支出サイドから見たGDP」の動きが分かれるとされる。消費の中心である自動車や住宅、家電製品などにどんな影響が出るか今後注目していく必要がある。

9 . 東京オリンピックがもたらす雇用インパクト

2014.04.17 リクルートワークス研

http://www.works-i.com/pdf/140417_olp.pdf

10 . 「成長戦略改訂」と「内閣改造」がアベノミクスの次の焦点

安倍首相は経済で「改革姿勢」を示し続けられるのか

2014.4.25 磯山友幸 日経ビジネスOnline

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20140424/263409/?P=1>

年初から日本株を売り越してきた海外投資家が、4月に入って買い越しに転じている。4月第1週は1150億円の買い越し、第2週は3923億円の買い越しと、金額は大きくないものの、日経平均株価が一時1万4000円を割り込むなど軟調な中で、下値を売り叩こうというムードが消えていることだけは確かだ。海外投資家の動向を注視しているアナリストのひとりには、「アベノミクスの改革の具体的な成果が出てくれば、株価が上昇する余地はあるので、株価が下がった段階では買い戻しておこうという動きは根強い」と分析していた。言い換えれば、上値を追って買いあがるほどには改革の具体的な成果が出ていない、ということだろう。

11. アベノミクスの成長戦略でカギを握るのは、供給サイドではなく需要サイドの活性化

新・日本経済「創造的破壊」論

2014.4.28 伊藤元重 DIAMOND Online

<http://diamond.jp/articles/-/52235>

昨年、大胆な金融緩和策と機動的な財政政策によって、アベノミクスは想定以上の好スタートを切った。その成果が大きかったことは、株価、為替レート、物価上昇率、失業率や有効求人倍率などの雇用指標など、どれをとっても明らかだ。